

北海道新幹線建設と本町の負担について

町長 建設同意時の試算では10億と見込まれる

三島

北海道新幹線が2030年度開通として、現在二ツ森トンネルの掘削が開始され、羊蹄トンネルも平成30年から掘削予定とされ、徐々に本格化している。

北海道新幹線の倶知安町内に建設予定の総延長はトンネルを含めて20kmとされているが、このうち用途地域内延長の2kmが倶知安町の負担の範囲とされている。

そこで次の点について伺う。

① 倶知安町に関わる北海道新幹線の総工費と倶知安町負担について



三島 喜吉 議員

② 駅舎の概要については、まだ報告を受けていないため、お示しできない。しかし、高架構造となつたことで、開業済みの木古内、新函館北斗の事例からも、3階がホーム、2階が改札や事務所、1階は事務所などであり、ホームの長さは、北海道新幹線の車両長から、250メートル程度と推察

される。今後、情報提供があり次第、お示ししたい。

③ 固定資産税については、本町には約20kmの新幹線施設が建設されるが、用途地域内の2km分の試算事業費しか示されてなく、各施設の耐用年数や建設時期が未定など、不確定部分が多い中での試算となるが、用途地域内2km分が300億円、町内で施工される二つのトンネルの公表契約額から、トンネル分320億円、その他、高架建設7キロ分を350億円と見積もると、町内の固定資産税対象額としては970億円と試算される。

施設の平均耐用年数33年と仮定し、新幹線に対する税の優遇措置を勘案すると、33年分で約50億円の固定資産税収入と試算されるが、交付税算定において減額されること

から、増加する分は4分の1程度となる。

都市計画道路街路事業について

三島

倶知安町においては保育所建設・観光中核施設・役場庁舎建設・新幹線関連とハード事業が目白押しで、財政が厳しい中ではあるが、まちづくりの要となる道路整備、特に都市計画道路が重要となる。

現在、北7条街路事業が進められているが、この事業の年次計画と今後の予定、また、この事業の後に予定されている街路事業について伺う。

町長

都市計画道路の重要性については十分認識しており、倶知安高校前の北7条通では、児童及び生徒の通

学路の安全対策という位置づけのもと、都市計画道路事業の認可を得て、昨年度から平成34年度までの7年間の事業として、総事業費約3億6,000万円を整備を進める。

年次計画では、昨年に詳細設計を行い、一部区間での用地確定測量、支障物件にかかる物件補償調査を行い、今年度については、残りの区間の測量及び調査を行い、準備が整ったところから用地買収と物件補償を実施する予定。

次年度以降については、引き続き用地買収と物件補償を行い、平成32年度より本工事に着手したい。完成時期については、子どもたちの安全確保の観点から、平成34年度よりも前の完成を意識して進めていく。

駅周辺整備に伴う交通動線のあり方や、駅と高速道路インターチェンジとのアクセス性の向上などの観点から、都市計画道路の見直しと、それに基づいた整備が想定されることから、今後のまちを取り巻く状況を十分注視し、皆様のご意見を頂きながら、引き続き街路事業につきまして、しっかりと計画を立てて取り組んでいきたい。



高校前の北7条通

一般質問 三島喜吉